

船坂新聞

ホームページ <http://homepage3.nifty.com/nishinomiya-funasaka/>

2010.08.08 第23号

発行：船坂新聞倶楽部

問い合わせメールアドレス funasaka.moriagetai@gmail.com

梅原さん音頭デビュー

8月15日は盆踊り

8月15日は恒例の盆踊りです。

船坂音頭保存会に加入された梅原さんは、昨年からは盆踊りに向けて練習されていましたが、今年2月からは隔週、6月からは毎週金曜日20時より本格的に音頭の練習を始められ、上中一幸さんをはじめ緒先輩方の指導のもと練習をかさねてこられ、今年の盆踊りで

初音頭をとられることとなりました。7月23日（金）には音頭保存会の先輩ご婦人方と音頭と踊りを合わせて、練習の成果を披露されました。

梅原さんは「もともと歌が好きだったから大変ではなかったが、仕事から帰って夜8時からの練習がきつかった。とにかく仲間がほしい。」と話しておられます。

そんな梅原浩之さんの音頭にあわせて、今年の盆踊りにはたくさんの方に踊っていただき、音頭仲間ができるといいですね！

（黒木 富美子）



旧船坂小校庭と船坂川清掃

旧船坂小校庭と船坂川を清掃しました

7月24日午後1時半から、SC21の呼びかけでグラウンドゴルフ、バレーボール、テニス部、学園のみなさん中心に約50名で校庭、体育館周り、駐車場等の草刈りを中心に清掃活動を行いました。人がいなくなった学校はあっという間に雑草がいっぱいで、背丈ほど伸びた場所もありました。草刈り機などが大活躍して、見違えるようにきれいになりました。

炎天下の中、汗びっしょりになりながらお手伝いいただき、ありがとうございました。

私たちの小学校をいつまでもきれいに残したいと思います。

また、翌25日は9時半から子ども会と共同で船坂川上流第2堰堤までの清掃を行い、空き缶やタイヤなど軽トラ一杯のゴミを集めました。何百年もかけて、地球の浄化作用できれいになった自然も、心ない人たちの行為で一瞬にして汚染されてしまいます。「船坂は自然がいっぱいで、きれいな場所だね」って言われる様にしていきたいですね。SC21関係のみなさん、2日間連続で本当にお疲れ様でした。

（鮫貝 佳秀）

古藪・野口・迫水ご夫妻 おめでとうございます！！

7月23日、山口センターでダイヤモンド婚、金婚を祝う会が開催されました。

古藪隆一・ヤス子夫妻と野口正義・品子夫妻がダイヤモンド婚、迫水月男・ヒロ子夫妻が金婚で祝賀されました。あめでとうございます。これからも仲良く元気で暮らしてください。



西洋料理/船坂

西宮市山口町船坂字北谷216番地
Tel/Fax 078-903-1158

知る人ぞ知る隠れ家レストラン



癒しの森のガーデンカフェレストラン Alice

〒651-1423 西宮市山口町船坂1626

TEL 078 (904) 2603

パースデーケーキをお宅までお届けします。

（山口町内 無料配達いたします。）

Kawahara Kobo



株式会社河原工房

〒569-0823 大阪府高槻市芝生町3-2-1

TEL 072-677-4586 Fax 072-677-4587

URL <http://www.omoiokatachini.jp>

e-mail info@omoiokatachini.jp



有馬街道ぶらり探訪 その7

旧船坂小学校から藪道を少し行くと、“黄金山善照寺”の山門に着きます。善照寺本尊の「阿弥陀如来」は、別名「浮足如来」としてもよく知られている金銅仏です。しかし、その由来については、いろいろな伝承があります。播州加東郡（現加東市）久米村の大井ガ池より出現の霊像で、朝光寺の僧如意坊が夢告により阿弥陀如来を背負いて船坂に赴く。阿弥陀如来を安置せよという同様の霊夢を見た善照寺住職の善想は迎えに行き、金仙寺にて二人は出会い、同道して善想庵室に入る。（寛正2年9月2日付、善想拝の由来縁起）

同じような伝承で、加東郡久米村の塩寺家に伝わる話。先祖の喜兵衛という人が、ある日井戸へ水を汲みに行ったところ、そばのかも池に阿弥陀如来が浮いていた。像を持ち帰り仏壇に祭ったが、仏は夜な夜な「船坂へ送れ。送れ。」と寝かせてくれず、桐の箱に仏像を入れ、木綿の紐で肩に引っ掛け有馬の方向へと行き、善想と会う。「黒い阿弥陀さま」伝説も興味深い。ある夏の日、喜兵衛じいさんは小さな池で黒い阿弥陀像を拾い上げる。像は夜毎「舟坂へおかえし申せ」と言うので送ることにして進んでいくと善照寺の僧と会う。僧は、盗まれた像が夢に現れ「迎えにくるように」と言うので行くところですよ。純金の像は盗難防止のため黒く塗られていたという。その像は、今も善照寺にある。（新修加東郡誌）

又、久米村の“西教寺の寺伝”によると、新田義助の臣の粟生亮信という者が攝州の合戦に破れ、久米の地に遁世の居を定めた。その四世の喜平治が、池中から黄金の阿弥陀像を発見し仏壇に安置した。夜な夜な同様のことがおこり、喜平治は船坂へ。途中で夢告により迎えに来た善想と会い、善照寺に安置した。寛正2年という。喜平治は、これが縁で仏門に入り、その後蓮如上人に帰依得度し、名を実乗と改め、賜った六字名号を持ち帰り、草堂を建立した。その一字は、その後東旭山・西教寺と号し、初代住職は実乗とされる。その際に持ち帰った六字名号は今も現存し、西教寺の寺宝として大切に保存されている。（善照寺に蓮如上人が有馬入湯の際に賜った蓮如上人御真筆の六字名号があると伝えられるも、所在の分からない軸は、もしかしたら、西教寺に保存されているこの軸かもしれない。）

別に、上久米村の“日照山東光寺略縁起”によれば、寛正年に山の麓に寺があり、大日尊・阿弥陀仏を祀っていた。ある時、大雨で山が崩れ寺は土中に埋まった。翌日、山上に幡の形が現れ、村人が峰に登ると大日尊がおられたので草堂を造り安置した。もう一体の阿弥陀仏はなお地中に埋もれていると思われていたが、その後、摂津口船坂の人が夢告により、尋ね来て山の南の池の中より阿弥陀を得て、船坂で祀りその後上久米の庄の人が船坂に行きて阿弥陀仏を拝すると伝える。（加東郡誌）

これらの話から、善照寺の阿弥陀如来は、久米地方から伝えられたのであろうか。或いは、僧善想が阿弥陀信仰を広めんがための由来縁起創作か、黄金仏としての噂が久米の辺りで有名であったための由来縁起なのであろうか。今後の検証をまちたい。しかし、古くから船坂と久米地方との交流があったことは間違いない。

次に、石塚と五輪塔についても触れておきたい。寺境内の裏庭の片隅に、古ぼけた小さな石と五輪塔（高さ70cm位：右写真）がある。行基菩薩伝説として伝わり、字コイツカ（鯉塚）の地名の由来ともなっている「行基が鯉の骨を埋めた塚」と関係があるのではないか。旧湯山古道から10mほど入った場所でもあり、寺の境内（裏山）でもあることから、そのように推察したい。合掌。



Daddys Bakery
est. 2002



〒651-1423 西宮市山口町船坂90
TEL : 078-907-3920



Kobako Vege

こばこベジ

〒662-0978 西宮市産所町3-24
OKKO陶芸工房2F
TEL&FAX 0798-26-3618
e-mail kobako.design831@gmail.com



セブン-イレブン

西宮船坂店

〒651-1423 西宮市山口町船坂419
電話 078(903)1090

ビエンナーレ2010

協賛金、ボランティアへのご協力ありがとうございます

先月（7月）号で、2つのお願いを掲載させていただいたところ、続々と協賛金が寄せられています。個人はもちろん、企業・店舗からも多数の協賛金をいただき、ありがとうございます。しかしながら、目標額までには、あと少し届いておりません。引き続き船坂以外の知人・友人などにもお声がけをよろしくお願いいたします。

ボランティアの申し出も多数の皆様からいただきました。インターネットを通じて学生さんからもボランティア希望が届き始めました。しかし、平日のボランティアが不足しています。今後、割当表を作成する予定ですが、ボランティアは引き続き募集していく予定です。船坂地域以外の知人・友人をお誘いいただけるとありがたく思います。よろしく申し上げます。

野菜などの販売を！

今年は、昨年以上の来場者が来られることが予測されます。

昨年アンケートで「新鮮な船坂野菜を売ってほしい」という声が多くありました。畑耕作者の皆さん、畑の前に野菜売り場を設けるなどの工夫をしていただけませんか！少しでも収益をあげてください。

そのほか、軒先で加工品などを販売するなど、地域の皆さんが智恵をこらした商品販売をよろしく申し上げます。
（収益金は、全額、出店者の収入としてください。）



案内本部では小品の直接販売を

いつもありがとう



今年の案内本部は、旧ランチルーム棟の図書コーナーです。

案内本部では、推進委員会手作りの記念Tシャツなどを直売して、協賛金の足しにしようとして計画しております。手作りの際には、地域の皆様のご協力をお願いすることがありますので、よろしく申し上げます。

作家さんの制作活動が始まりました

8月1日から黛（まゆずみ・神奈川県）さんが、善照寺の横の宮本勝男さん所有地で作品づくりを開始されました。20日間滞在予定です。8月4日からは鈴木孝幸さんも来られます。

今後、続々と作家さんの滞在制作が始まります。9月からはドイツ作家さんたちが、9月末～10月初めの間は10人を超える作家さんが滞在制作される予定です。（滞在制作期間中は、夜間、旧校舎に電灯が灯る時があります。）

今、学校に入ると、木造校舎は、梅雨の間も閉めっぱなしだったために、階段・教室などの床面に白くカビが生えていて、入ったとたんにカビの臭いが鼻をつきます。

作家さんの制作活動が始まれば、風通しもよくなり、木床も乾燥してくれることと思います。地域の財産である市内唯一の木造校舎を永く保存するためにも、作家さんに感謝です！

各所で作家さんを見かけられたら、気軽にお声をかけてあげてください。力仕事など、手伝ってあげていただければ、喜ばれることと思いますよ。



各作家の作品展示場所が決まりました



ビエンナーレ2010に参加される各作家作品の展示場所が確定しました。今年には旧船坂小学校施設も展示会場として使用します。

学校施設以外は、すべて土地・家屋の所有者（管理者）のご協力を得て、展示場としてお借りするものです。ご協力ありがとうございました。

周遊ルートは、今後、推進委員会で協議して決定する予定ですが、ほぼ昨年と同様のルートとなる見込みです。

周遊ルート沿いの田畑を耕作されている皆様や民家の皆様には、約1ヶ月間大変ご迷惑をおかけすることとなりますが、ご協力の程よろしくお願いたします。

なお、ルートを外れて田畑などへ侵入されることのないよう、注意看板の設置を計画しておりますが、来場された方々へは地域全体で直接注意を喚起していただきますよう、ご協力の程よろしくお願いたします。

（▲印：作品展示予定場所）



株式会社加登

〒651-1423 西宮市山口町船坂710-4
TEL: 078 (904) 3843 FAX: 078 (904) 0169
<http://www.forever-kato.co.jp>



株式会社 古材問屋

651-1423 兵庫県西宮市山口町船坂280
Tel: 078-903-5314 Fax: 078-903-5319
<http://www.kozaidonya.com>



ガレージ&カフェ ペニーレーン

〒651-1423 西宮市山口町船坂字北谷206
TEL (078) 904-0617 FAX (078) 907-2340
<http://www.penny-lane.jp/>

船坂小学校跡地施設活用検討のための現地視察



7月31日、西宮市が主催する現地視察がありました。市の職員を含め、地元準備委員及び地元有志の皆さん併せて23名が参加し、『後川複合教育施設』と『里山ねっと・あやべ（綾部市里山交流研修センター）』の2施設を訪問し、施設スタッフの説明や施設の視察を行いました。

まず、『後川複合教育施設』は旧後川小学校跡地（平成22年3月閉校）にあり、地元自治会や篠山市役所の皆さんによる小学校跡地活用の取組状況や、その後の問題点や課題などの説明があった後、施設の利用方法や若い世代の参加状況、中核組織の体制面などについて、さまざまな意見交換が行われました。「後川まちづくり協議会」が組織され、県助成金等で運用しているのが印象的でした。この地域は人口や世帯数、そして自然環境などが船坂と似通っており、興味深く感じました。

次に、『里山ねっと・あやべ』は旧豊里西小学校跡地（11年前に閉校）にあり、運営管理されているNPO法人の前田事務局長から、パワーポイント（スライド）により、運営組織の体制（事務局職員4名、理事10名、ボランティア多数）、主な事業（米作り塾、茶摘み体験、里山そば塾、農家民泊、里山交流大学など）の説明があり、その後、施設見学をさせていただきました。2階教室を改造した宿泊施設の利用が最も多いとの説明が印象的でした。この施設は専従職員が複数おられて、組織体制がしっかりしているなあと感じました。

今後、これらの施設見学も参考としながら、地元にとって、最善の跡地施設の活用が図られるよう、準備委員会で検討されていくでしょう。（橋本 悦夫）

船坂若者（わかもん）座談会（第2回）

船坂居住の20代の方による座談会。今回は「船坂の現状」と「船坂の新しい動き（前半）」についてお話いただきます。

【船坂の現状】

（編）今の船坂は若年世帯減少・高齢化・転入者僅少で、将来はその地域で生活維持できなくなる“限界集落”の恐れもありそう。20～30年後、船坂は存続してると思えますか。

（C）今と変わりなく、存続してると思えます。

（B）活動で中心になってる人の高齢化を考えると厳しいかもしれません。船坂に住む親が亡くなり、その子どもが50～60歳代になり、自分の子が育ちきってから船坂に帰ってくるイメージがあります。

（A）ずっと残って欲しいと思ってるし、廃校でなく閉校なので今後の希望はあると考えてます。状況改善してこの船坂に子どもを持つ人呼び込み、子どもが増えて再び小学校が開校されればいいと思えます。でも、船坂地域内に仕事がないので若年世帯は外で働かざるを得ないところは呼び込みの面で難しいと思えます。

（D）盤滝トンネルの料金も影響があると思えます。やまなみバスもトンネルを通るだけで急に200円近く上がってしまう。通勤通学も普段の生活に関わることなので問題だと思えます。トンネル分の無料化でバス代が安くなれば状況も変わるんではないかと。

（E）子どもがある程度育った40才前後なら、誘致活動すれば転入も有りえるかもしれませんが、小学校がなくなった状態で子どもを持つ若年世帯の転入は無理だと思うし、逆に船坂からでていく若年世帯を止めることも出来ないと思えます。

（B）スクールバスで小学校に行けるならまだしも、一般のバス通学となると費用の面もあるし、子どもが友達と遊ぶにもバスで行かないといけない。これから生まれる子供にバス補助がないのもどうかと思うし、親にとって全て負担でしかないので、若年世帯は住もうとしないと思えます。

（次頁へ続く・・・）



